

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター
病害虫防除所長
(公印省略)

令和 6 年度農作物病害虫発生予察情報について

令和 6 年度農作物病害虫発生予報第 2 号を発表したので送付します。

令和 6 年度農作物病害虫発生予報第 2 号

令和 6 年 5 月 21 日
徳 島 県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5 月第 2・3 半旬の巡回調査では、発生圃場率が 56.3%、25 株当たりの本田生息虫数が 2.3 頭と、平年(42.4%、1.9 頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が 5 月 16 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、田植後 10~15 日後に薬剤を施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

II. 果樹

カンキツ

そうか病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5 月第 3 半旬の巡回調査では、春葉での発生圃場率が 40.0%、発病度が 0.4 と、平年(19.0%、0.1)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が 5 月 16 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生園では落花期に薬剤防除を行う。

黒点病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5 月第 3 半旬の温州みかん巡回調査では、枯れ枝から黒点病菌が確認された圃場率は 37.5% と、平年(51.3%)並の発生である。枯れ枝中の α 型孢子数は 0.3×10^5 個/g(平年： 1.0×10^5 個/g)であった。
- (2) 高松地方気象台が 5 月 16 日に発表した 1 か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 枯れ枝、剪定枝は園外へ持ち出して処分し、病原菌密度の低下に努める。
- (2) 落花期に薬剤防除を行い、その後1か月毎、または降水量200～250mm毎に防除を励行する。

かいよう病(スダチ)

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬のスダチ巡回調査では、旧葉での発生圃場率が100%、発病度が3.8と、平年(85.7%、2.5)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が5月16日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病枝の剪定を行い、常発園では必ず防除を行う。
- (2) 前年、果実の着果量が少ない園では、前年の夏・秋芽が増加しやすく、罹病枝が多くなる可能性が高いため、夏・秋枝の剪定を徹底する。
- (3) 風当たりの強い園では防風対策を講じる。

ヤノネカイガラムシ

1) 予報内容

発生時期 平年並

2) 予報の根拠

- (1) 県予察圃場(勝浦町)での第1世代幼虫は、5月15日に初発生を認めた(平年:5月15日、前年:5月13日)。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤による防除適期は、IGR剤・ネオニコチノイド剤の場合、第1世代は、ふ化幼虫初発生確認の10～15日後、有機リン剤の場合、35～40日後の時期である。
- (2) スダチでは、有機リン剤による防除は行わない。

ミカンハダニ

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬の巡回調査では、旧葉での発生圃場率が86.7%と、平年(49.4%)に比べて高いが、寄生葉率は5.0%と、平年(9.0%)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が5月16日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。防除の際には、かけむらのないように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 5月第3半旬の巡回調査では、葉での発生圃場率が12.5%、発病葉率が0.1%と、平年(2.5%、0.0%)並の発生である。一方、果実では発生圃場率が25.0%、発病果率が0.3%と、平年(2.5%、0.0%)に比べてやや高い。
- (2) 高松地方気象台が5月16日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 摘果期に薬剤防除を行う。
- (2) 薬剤耐性菌が出現する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

- 1) 予報内容
発生量 平年並(前年よりやや多い)で、発生程度は「少」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 5月第3半旬の巡回調査では、発生圃場率が25.0%、寄生新梢率が1.0%と、平年(30.0%、1.8%)並の発生である。
 - (2) 高松地方気象台が5月16日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。
 - (2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が葉裏にも付着するよう丁寧に散布する。
 - (3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類(令和6年4月30日付けで注意報発令中)

- 1) 予報内容
発生時期 平年より早い
発生量 平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」
- 2) 予報の根拠
 - (1) 予察灯調査においては、ツヤアオカメムシは、勝浦町では平年(4月22日)より19日早い4月3日に、上板町では平年(4月17日)より6日早い4月11日に初誘殺を確認した。また、チャバネアオカメムシは、勝浦町では平年(4月26日)より18日早い4月8日に、上板町では平年(4月26日)より14日早い4月12日に初誘殺を確認した。
 - (2) 同調査において、4月第1半旬から5月第2半旬までの誘殺数は、勝浦町では、ツヤアオカメムシが464頭と、平年(56頭)の8.2倍、チャバネアオカメムシが280頭と、平年(26頭)の10.8倍誘殺された。また、上板町では、ツヤアオカメムシが2,028頭と、平年(70頭)の28.9倍、チャバネアオカメムシが119頭と、平年(21頭)の5.6倍誘殺された(表1)。
 - (3) 高松地方気象台が5月16日に発表した1か月予報では、気温は平年より高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並で、期間の前半は気温がかなり高くなると予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

表1 予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

[ツヤアオカメムシの誘殺数]								[チャバネアオカメムシの誘殺数]							
月	半旬	勝浦町			上板町			月	半旬	勝浦町			上板町		
		2024年	2023年	平年	2024年	2023年	平年			2024年	2023年	平年	2024年	2023年	平年
4	1	2	0	0	0	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0
	2	1	0	0	0	0	0		2	1	0	0	0	0	0
	3	1	0	0	1	1	0		3	0	0	0	2	0	0
	4	1	0	0	108	0	1		4	1	0	0	6	1	1
	5	14	0	3	262	0	7		5	3	0	1	43	0	4
	6	154	1	5	1125	1	11		6	40	1	3	54	0	2
5	1	202	1	28	384	1	32	5	1	229	0	10	12	5	8
	2	89	2	20	148	3	19		2	6	5	12	2	3	6

- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ、キリ等)から成虫が飛来するので、園内を巡回し、飛来を認めたら早急に防除を行う。
 - (2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。
 - (3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

Ⅲ. その他

- 1) 薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2) 水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚>多>中>少>無

発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

- 病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。